

朝・昼・晩と楽しめる街

八戸

はちのへ

全国屈指の水産都市であり、北東北随一の工業都市でもある八戸市。
三陸復興国立公園・種差海岸、多くの人でにぎわう朝市・横丁…。
自然に食に、朝も夜も魅力あふれる八戸に「おんでやあんせ」。



三陸ジオパーク認定! 種差海岸

八戸市の中心街から車でわずか30分のところに、昨年5月に三陸復興国立公園に指定された「種差海岸」(たねさしかいがん)が広がっている。

ピーク時には3~4万羽のウミネコが飛来し、ウミネコの繁殖を間近で見ることができる希少な場所・蕪島が、種差海岸の北の玄関口。初夏には色とりどりの花が咲き乱れる中須賀や、太平洋を一望できる展望台がそびえる葦毛崎付近では、荒々しい岩肌が露出した磯が見られる一方で、鳴砂で知られる大須賀海岸、海水浴客でにぎわう白浜では、穏やかで美しい砂浜が続く。さらに南に進み、樹齢90年以上の松林・淀の松原を抜けた先には、天然の芝生が浪打際まで広がっている。このように、種差海岸では変化に富んだ様々な自然の表情を楽しむことができる。

また、市街地に近い場所にありながら、650種を超える植物が咲き誇る種差海岸は、別名「花の渚」。海浜植物と高山植物、北限植物と南限植物が隣り合って生育し、独特の景観をつくり出している。作家・司馬遼太郎をはじめ、種差海岸の絶景に魅せられた多くの文人・画家たちは、数々の作品の中で種差の素晴らしい自然を描き、その美しさを賞賛している。

今年7月12日には「種差海岸インフォメーションセンター」がオープンし、種差海岸の自然や動植物の生の情報を発信するほか、自然と親しむ様々な体験プログラムが展開されている。さらに、八戸市の蕪島から福島県相馬市までの沿岸部を中心とした約700kmを歩道でつなぐ「みちのく潮風トレイル」では、八戸市の蕪島から「あまちゃん」のロケ地・岩手県久慈市の小袖海岸までの約100kmが一部開通している。自然や文化・人々の暮らしを感じながら、地域を歩いて巡ることができるトレイルを、多くの人が訪れている。



ウミネコの守り神? 蕪嶋神社

蕪島の頂にある「蕪嶋神社」は、鎌倉時代にこの地に流された工藤犬房丸が、故郷の江ノ島に似た蕪島を懐かしみ、その頂上に巖島神社を創建したのがはじまりと伝えられている。弁財天を奉る蕪嶋神社は商売繁盛や子宝にご利益があるとされ、江戸時代には八戸南部藩の庇護を受けるなど、人々の信仰の対象となってきた。また、蕪島の代名詞ともいえるウミネコも、漁場を教えてくれる弁財天の使いとされてきた。蕪島は、繁殖地として、また信仰の場として、現在でも大切に守られ続けている。

東山魁夷の「道」

日本を代表する画家・東山魁夷の代表作の一つ「道」は、種差海岸の海岸線沿いの道のスケッチに着想を得て描かれたものである。現在は、彼がスケッチをした場所に標柱が建てられ、ここから白垂の鮫角灯台に伸びる道が、「道」の原風景となっている。



豊かな自然を楽しんだ後は 「昭和の風情漂う 8つの横丁探訪」



花小路

1

中心街の再開発に伴って生まれた「花小路」は、まちの結節点。みろく横丁、大吉通り、小さな市場「花横市場」…花小路を抜けて、八戸の街を探索するのが乙。



みろく横丁

2

東北新幹線八戸開業時に生まれた新しい横丁。三日町と六日町にまたがる立地から、「みろく横丁」と名付けられた。26もの屋台が軒を連ねるバラエティ豊かな横丁で、「一見さん」でも入りやすい明るい雰囲気特徴だ。



ロー丁れんざ街

3

江戸時代に牢屋があった通り「ロー丁」に面して店が連鎖状に並ぶ「ロー丁れんざ街」。人通りが多く、開放的でにぎやかな横丁。



たぬき小路

4

北海道随一の歓楽街「狸小路」を目指して、八戸の「たぬき小路」と呼ばれるようになった横丁。まるで映画のセットに迷い込んだような、昭和の風情が色濃く残っている。

寺横町

鷹匠小路

長横町

八戸

ゆりの木通り

三日町

六日町(肴町)

みろく横丁

みろく横丁

花小路



長横町れんざ街

ロー丁れんざ街

たぬき小路

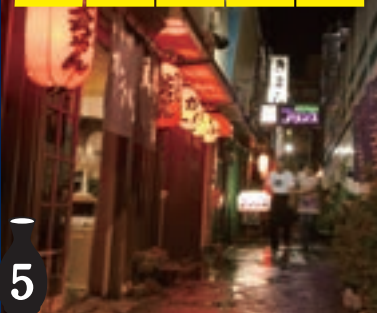
五番街





八日町

長横町れんさ街



5

映画館脇の横丁に、鎖を繋いだように飲食店が連なっていたことに由来する「長横町れんさ街」。ネオンきらめく路地は、横丁の王道を体現している。

ハーモニカ横丁



6

ハーモニカのリードのように飲食店が並んでいたことから、「ハーモニカ横丁」。アーチをくぐって横丁に入り込むと、迎えてくれるのは個性なお店の数々。

八戸昭和通り



7

かつては名前のない飲食店街だったが、最近「八戸昭和通り」と名付けられた横丁。八戸ならではの料理を楽しむことができる店が軒を連ねている。

五番街



8

アメリカ映画「五番街の出来事」にちなんで「五番街」と名付けられた横丁。建物がひしめきあい、昼でも薄暗い路地を通り抜けると、横丁ラビリンスに迷い込んだ気分になれるはず。



朔日町

岩泉町

ハーモニカ横丁

6



昭和通り

7

横丁満喫の翌朝も楽しい 「はちのへ朝市散歩」



横丁で八戸の夜を満喫したら、次の日は早起きして朝市に向かうのが、八戸をまるごと楽しむための定番コース。そのにぎわい、新鮮な食材、バラエティの豊かさなどを体験すれば、きっと、早起きして良かった!と思えるはず。



館鼻岸壁朝市

普段は漁船が停泊する広い岸壁に、日曜の朝だけ突如として出現する「館鼻岸壁朝市」。全長約800m、350もの店が並び、毎週数万人の人出がある巨大朝市で、八戸の新鮮な海産物はもちろん、果物、野菜、惣菜、さらにはコーヒー、ラーメンにうどん、ミシンや骨董品までが売っていて、見て歩くだけでも楽しめる。



陸奥湊駅前朝市

戦後より八戸の台所として知られる、JR八戸線陸奥湊駅の周辺で行われている朝市。八戸市営魚菜小売市場では、八戸ならではの新鮮な刺身、蒸しウニや筋子、焼き魚など、お好みの食材を購入して、その場でご飯や味噌汁と一緒に食べる特製の朝ごはんを楽しむことができる。